

様式3

平成18年度 傾斜的研究費(特定)(全学分)(戦略分・公募分)研究報告書

研究テーマ区分 [①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究]

研究課題名	東京都大島を拠点とした自然環境・科学教育プログラム開発のための研究	
研究者または研究代表者名	所属部局名	職位
西 駕 秀 俊	理工学・生命科学	教授
研究分担者名	部局名・所属研究機関名	職位
菊地俊夫	都市環境・地理環境	准教授
黒川 信	理工学・生命科学・	助教授
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）		
<p>当初研究計画に基づき、以下の事項を実施した。</p> <p>2006年6月 魅力あるプログラム案発掘のための全学教員に対するアンケート・分析。</p> <p>2006年8月 発生物学臨海実習（生命科学学生20名）          高大連携事業（出張授業、院生アウトリーチ活動；対大島海洋国際高校）          フィールドトレーニング（社会人類学生7名）          中大連携（出張指導；対大島第二中学）</p> <p>2006年11月 オープンユニバーシティ（OU）野外講座「自然のサイエンス」（受講生18名）</p> <p>2007年1月 高大連携事業（講演会、院生アウトリーチ活動；対大島海洋国際高校）          3月 数理科学ゼミナール（大学院生7名）          高大連携事業（「進路講演会」国際海洋高校）          大島町公開講演会（参加町民30名）</p> <p>以上の活動は、理工系、人文社会系、OU教員延べ66人日により、大島町・同支庁等諸機関、中高校との連携・調整の下に実施された。この成果を踏まえ、平成19年度には下記のプログラム実施が計画されている。</p> <p>2007年5月 OU野外講座「自然と歴史と文学と」（定員20名）（＝本研究で実現したOUの新規野外講座の実施継続）          8月 生理・発生物学臨海実習（学部生25名予定）（＝新規開講）          社会人類学調査実習（学部生15名予定）（＝新規調査実習）</p> <p>この他に、他大学学生も参加可能な「公開野外実習」の提供を目指す。これにより単位互換協定を締結し、「全国臨海・臨湖実験所公開臨海実習」への本学学生の自由な参加を実現する。最後に、平成19-20年度 傾斜的研究費（戦略分）「特徴ある学外・体験型教育プログラム開発・実施のための全学的研究－伊豆大島を拠点として－」（代表：人文社会 渡邊欣雄教授・全学21教員で組織）が採択されたことを付記する。</p> <p>本研究は本学の教育に一層の魅力・特徴を付加し、これを発展させることに貢献したと考えられる。</p>		

### 様式3

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者 (講演者)	論文題目 (発表題目)	発表誌 (発表大会名)	年月
Takatori, N., Wada, S. and Saiga, H.	Regionalization of tail-tip epidermis requires inductive influence from vegetal cells and FGF signaling in the development of an ascidian, <i>Halocynthia roretzi</i> .	Zool. Sci.	2007 (印刷中)
西駕 秀俊	私たちの祖先- ホヤの発生と遺伝子	日本動物学会関東支部大会公開シンポジウム 「海は生命のふるさと」	2007年3月
Uchimura, K., Ai, H., Kuwasawa, K. and Kurokawa, M	Excitatory neural control of posterograde heartbeat by the frontal ganglion in a lepidopteran, <i>Bombyx mori</i> .	J. Comp. Physiol. 192:175-185	2006
Ito, S. and Kurokawa, M	Coordinated Peripheral Neuronal Activities among the Different Regions of the Digestive Tract in <i>Aplysia</i> .	Zool. Sci	2007 (印刷中)